

RNNReligious NGO Network
On Humanitarian Support
Since 1996世界各地で人道援助に取り組む
宗教NGO、宗教者、信仰者を結ぶ
人道援助宗教NGOネットワーク

RNNニュースレター

そよかぜ

爽やかな風を世界の人々に

発行所

国際貢献トピア岡山構想を推進する会内

人道援助宗教委員会

委員長：西村美智雄

広報担当：永宗幸信

事務局

〒701-1212岡山市尾上神道山2770

TEL / FAX 086-284-1242

URL : <http://www.rnn.jp/>

RNN事務局長：黒住宗道

RNNでは、今年4月に、特別メンバーとしてRNNに参加して頂いている日本ムスリム協会の樋口美作名誉会長の協力を得て、イラク戦争などで親を失った孤児たちの支援を実施しました。今回の支援は、西村美智雄委員長が専務理事を務めるKPA C金光教平和活動センターの呼びかけに、RNNが賛助する形で実施し、イラクの首都バグダッド市内のアーゼミーヤ孤児救護院で暮らす孤児たちに、文房具・学用品、衣類、電化製品、生活必需品等の援助物資を届けました。

6月13日には、樋口名誉会長が、現地で共に支援事業にあたったイラク人のナジャード・アルサフィーさん（日本空港総代理店・ハイヤムトラベル社長／バグダッド在住）とともに岡山を訪れて、今回の支援事業の中心となった金光教平和活動センター（藤井泰雄理事長、事務局Ⅱ金光町大谷）の定期総会にあわせて、支援報告会が開催されました。

樋口名誉会長とナジャードさんは、現地での活動の様子をスライドやビデオで詳しく紹介し、参加者も熱心に耳を傾けました。報告によると、樋口名誉会長は、あらかじめ支援物資の文房具を日本で調達し、奥さんの手伝いを得て、小ケースに分けて、日の丸入りのRNNとKPA Cのシールを貼って現地向けにしました。

4月中旬にヨルダンの首都アンマンに入り、日本航空勤務時代からの親友であるナジャードさんと会流。持参した文房具に加えて、さらに現地で、衣服、学用品、生活必需品等の援助物資を調達し、邦人誘拐事件などがピークの時バグダッドには入れなかったため、現地の有志ムスリムの協力者



樋口美作名誉会長

イラクの孤児院へ支援物資 日本ムスリム協会 樋口美作名誉会長に委託



孤児院までの運搬をボランティアしてくれた現地のムスリム



樋口名誉会長が日本から持参した文房具類



現地で調達して荷造りした支援物資

の手によってワゴン車で陸送し、孤児救護院に届けられました。

樋口名誉会長は「ナジャードさんと現地協力者の奉仕で無事、孤児救護院に物資を届けることができました。異なる宗教でもその根本では共に認め合い、共有できることが証明されました」との感想を語られ、一方、「私には支援者に報告する義務があります」とヨルダンから来日されたナジャードさんは「多くのイラク人は日本人に対して尊敬と敬愛の念を持っています。今回の支援は金額の多寡を超える大きな貢献だったと思います」と支援に対する感謝の念を述べられました。

報告会には、山陽新聞や金光新聞からの取材もあり、記者からの自衛隊に対する質問にナジャードさんは「いろいろな見方があるようだが、やはり日本人に対する期待は大きい」「治安についてはイラク人が争いを起こしているように言われているが、その要因はほとんどが外国がもたらしているもの。イラク人は争っている暇はなく、生活がしたいんです」とも語られました。

また、午後には岡山市のレストランでRNNのメンバーが集まり、樋口名誉会長とナジャードさんの慰労会を開催しました。

なお、樋口名誉会長には、かつて9・11テロ発生時に、RNN主催のイスラム教を理解する講演会の講師を務めてもらったことが縁で、RNNに特別メンバーとして参加してもらっています。



ナジャード・アルサフィーさん

そよかぜ 小与加世

かつて民政党の斎藤隆夫代議士は大戦前夜の1940年（昭和15年）2月の第75帝国議会において、米内首相に対する質問演説で「ひとたび戦争がおこれば問題はもはや正邪曲直是非善悪の争いではなく徹頭徹尾、力の争い、強弱の争いであって、八紘一宇とか東洋永遠の平和だとか、聖戦だとかいってみても、それはことごとく空虚な偽善である」と政府批判を展開し、満場の喝采を浴びた。しかし直後、陸軍からの猛烈な非難と付和雷同する議会からの批判に遭い、翌月議員除名に追いやられた。その後の政局は政党解党、大政翼賛会へと急速に軍部追従に傾斜し、あらゆる情報の隠蔽とごまかしによる報道管制、そして恐怖政治をもつて、国民を置き去りにする自滅戦争を導いた。◆そもそも整合のしようがない武力を自衛力と称して憲法第9条に難解な解釈を与えて位置付け、既成事実を積み重ねて集団的自衛権の行使を許容する憲法改正に踏み切ろうとしている政府与党は、どんなに糊塗しても、戦争という最も忌みすべき状況の中に再び日本「兵士」を送り出すに違いない。政府と国民との間の溝はいつそうに深まり、まさに空虚な議論だけが空回りしている◆もはや一国の権威保持や安全保障の問題ではない。他者の危機は自らの危殆である。ことを自覚するべきである。平和を獲得するために武器を用い、あるいはちらつかせて敵対することがもたらした無益であることは夥しい流血をもってしても贖うことを許さない歴史の事実であることを思い返すべきである◆戦争はそれ自体が人間と社会を壊滅する空虚であることに気づくべきである。そして、われわれはこうした空虚の世界から一刻も早く、少しずつでもいいから脱出していかねばならない。

RNN委員長 西村 美智雄
(金光教平和活動センター専務理事)

NGOサミット RNNフォーラム

RNNフォーラム(第2分科会)
1月24日 pm1:00~5:00

RNNフォーラムテーマ：宗教と平和「平和構築のための宗教間対話」



ニューヨーク宗教センター・プログラム・ディレクター
マット・ワイナーさん(基調講演者)

今回のNGOサミットは「持続可能な開発のための教育」を総合テーマに「環境」「宗教と平和」「ジェンダー」「国際理解」の4つの分科会から総合テーマに迫り、ユネスコ未来教育センターの岡山への設立に向けたコンセンサスを得ることを目的として開催されました。RNNでは、1月24日午後第2分科会として「平和構築のための宗教間対話」をテーマにRNNフォーラムを開催しました。

「ユネスコ未来教育センター」構想は、2002年8月下旬から9月にかけて、南アフリカ共和国・ヨハネスブルグにおいて開催された「国連環境サミット」において決議された「持続可能な開発のための教育の10年」の実行計画で、ユネスコが主導的役割を果たすことになっている。国際教育プログラムであり、岡山ユネスコ協会が中心となつて岡山への誘致運動を進めているものです。

RNNフォーラムに先立ち、24日午前10時から、国際交流センター2階国際会議場でサミット全体の開会式が執り行われました。トピアの会の沖垣達会長をはじめ、臨席していた逢沢一郎外務副大臣、萩原誠司岡山市長が挨拶に立ち、「ユネスコ未来教育センター」設立に向けて積極的な姿勢を示しました。

続く基調講演では、グスタフ・オ・ロペス・オスピナ氏(ユネスコ中南米事務所)



仏教僧侶
マスター・チン・クン師

が、2002年のヨハネスブルグ・サミット以降、各面を取り組まれている「持続可能な開発」にかかわり、とくに2005年からの10年間に成し遂げなければならぬ課題について、その目標と方法を語りました。

◇ ◇ ◇

午後1時から同会場で開催されたRNNフォーラムには、約100人の参加がありました。はじめに、後藤RNN副委員長の後、西村RNN委員長が開会の挨拶をし、RNNの活動を紹介しました。さらに黒住RNN事務局長から、今回のメイン・スピーカーのマット・ワイナー氏が紹介され、基調講演が行われました。

【マット・ワイナーさん基調講演】

マット・ワイナーさんはユダヤ系アメリカ人でニューヨーク宗教センターのプログラム・ディレクターです。同センターは、さまざまな人種や民族(現在でも住民の40%は移民)の住む大都会ニューヨークにおいて、益々その必要性が増大している宗教部門と政治的・法的・社会的な非宗教部門との掛け橋となつて、国連事務総長局、関係大学、裁判所、図書館、市民団体等と連携を取りながら、先進的な宗教活動・宗教教育活動・社会活動を展開しており、このような活動がセンター長モートン師の先見的な哲学よることを



スリランカNESEC財団理事長
シロガマ・ヴィマラ師

紹介して、これまでに手がけたプログラムの具体例を紹介されました。

特に、子供の頃から互いの宗教的・民族的違いを認め合い、対立することなくお互いを理解、尊重し、協力できるところは協力し合う精神の重要性、また、そうして協働して初めて醸成される個人的な友情と信頼関係の重要性を強調されました。その意味で今回のサミットや分科会を通じてRNNやオーストラリアの多宗教センター等とも新たなネットワークが形成されたことの意義を認め、今後の活動の糧としたとの意向を表明されました。引き続き、4人の海外ゲストによる提言・発表が行われました。

【マスター・チンクンさん提言】

初めに著名な仏教指導者で教育者のマスター・チン・クン師(代読者「マオセン・ツォンさん・クインズランド大学経済学部シニア講師」)が「混迷を極める現在の世界で、その厳しい現実を克服し、名実ともに平和な『持続可能な未来』にしていくなかには、敬愛、誠実心、敬虔なる心、万物・祖先・人々への感謝の念、暖かい親切心、不動の信頼関係を醸成する家庭教育、学校教育、社会教育、宗教教育の4つが同時に行われなければならない。そのために、ユネスコによる『21世紀世界宗教大学』の設立を」と提言されました。

【トリー・スーヒンさん提言】

続いて、グリフィス大学多宗教センター長でユネスコ平和教育賞受賞者のスーヒン・トリーさんが発言され、「差別、暴力、紛争、テロ等が絶えない今の世界において、誠実心、謙虚さ、寛大かつ柔軟な気持ちで互いの伝統を理解、尊重し、和解の精神を持つ宗教者による宗教組織の活躍が重要だ」と強調され、実例を紹介しながら宗教者の活躍への期待を述べられました。

【プリミティボ・チュアさん提言】

AMDAシニア・アドバイザーで医師、パードレ・ブルゴス会議のメンバーのプリミティボ・チュアさんは「紛争の原因には宗教的な要素もあり、その意味で宗教者や宗教組織には紛争解決の潜在能力がある。宗教間対話の努力を続け、世界的規模で一致団結して、人類を平和へと導くことに期待したい」と述べられました。

【シロガマ・ヴィマラさん提言】

スリランカNESEC財団マヒンダ社会福祉センターのシロガマ・ヴィマラ師は「宗派・教団を超えて実際の人道支援活動、平和を目指した宗教活動を展開しているRNNのような心ある宗教者のネットワークによる相互交流・支援体制の実践、協働した活動や友情・信頼の輪を更に拡大していく必要があると実感している」との提言をされました。

【荒木美智雄さんコメント】

これらの発言を受けて、筑波大学名誉教授で国士館大学教授の荒木美智雄さんが、コメンテーターとして発言。「世界の大都市の単に合理的・便宜的な都市計画をみても明らかのように、資本主義、科学技術、近代合理主義、欧米化、コマースリズム等の過度の進展に伴って、日

2004(平成16)年 第10回おかやま国際貢献

1月22日～25日 主会場 岡山国際交流センター 総合テーマ：持続可能な開発のための教育

◆RNNフォーラムステートメント◆

「宗教と平和」の分科会参加者は、諸宗教が宗教間対話を通じて、平和構築を目指し、紛争や地域・世界規模の問題を解決していく極めて重要な役割を果たすとの見解で一致した。とくに下記のテーマと諸原則が探求され、強調された。

ただし、宗教の立場から、「持続可能な開発のための教育」というテーマをどのように受け止めるのか、「持続可能な開発のための教育」という命題そのものが、近代合理主義的思想基盤から発想するものであるとすれば、その命題に対する宗教的立場からの、すなわち、東洋的宗教性をはじめ、非西欧的宗教性の観点からの批判を含む検証を施さなければならない。

1 宗教間対話の意義と役割

- (1) 宗教間対話は各自の宗教・信仰を尊重し、理解を深め、平和、平安、人権、持続可能性といった共通の価値を確認することに寄与する。
- (2) 宗教間対話は、諸宗教の代表が直接に交流できる機会(例えば、多宗教ツアーや祭典等の)を通じて拡大させることができる。
- (3) 宗教間対話は、平和な社会や世界の構築に向けて、政府や国際社会の政策に影響を与えるための活動やプログラムに携われるよう、宗教指導者を励ましていく必要がある。
- (4) 宗教間対話を行っていくためには、諸々の現状や紛争の構造分析が必要となってくる。その目指すところは、平和・平安、正義、人権、持続可能性といった価値を反映した形で、組織制度上の変化や構造変化を生じさせることにある。

2 宗教間対話の今日的諸問題に対する実践的アプローチ

- (1) 宗教間対話は、宗教指導者だけではなく、全ての信者、草の根運動団体、さらには(自治体、企業、メディア、教育機関、職業、市民社会等)全ての分野の人々が関わっていく必要がある。
- (2) 宗教間対話は、紛争や諸問題解決のためのパートナーシップや共通の社会活動プロジェクトにもつなげなければならない。
- (3) 平和の文化構築へ向けた宗教間対話は、家族教育、公的・社会的教育、宗教教育を含むあらゆるレベルにおいて効果的かつ体系的な教育が必要となる。そのような教育においては、科学技術だけではなく、大切な価値や道徳が強調される必要がある。行き過ぎた競争を避け、メディアや情報技術を用い、批判的で参加型、そして自信・内的力を与えるようなアプローチを推進する必要がある。

3 宗教間対話を成立させるための宗教の在り方

- (1) 宗教間対話は、すでに宗教間対話にコミットしているグループだけではなく、あらゆる視点から、宗教内の全グループが関わっていくべきである。
- (2) 宗教内対話も同等に重要である。つまり、その成員は自ら進んで、謙虚な気持ちで自分達自身の信仰する宗教の脈絡において、(ジェンダーの平等、人権等の点で)紛争を惹起したり平和・平安を脅かしたりしかねないような諸々の考えや実践を批判的に反省する必要がある。

平和構築のための宗教間対話は、それぞれの教義・教理を持つ宗教者が、それぞれの宗教的信念に基づく戦争抑止、社会及び教育制度の改善などに取り組んでいる事実を踏まえ、相互の理解と協調の上で深められていく極めて現実的な態度である。そしてこの対話が進められ、深められていくところに、それぞれの教義・教理が自ずから検証、吟味され、より広範な対話の実現と世界の平和構築が可能となる。

人類・世界を覆うあらゆる価値は、すべからず人類の叡智から出発するものであるが、それらの存在の根元に宗教的意味を確かめることなくして世界の平和構築を望むことは出来ない。



豪グリフィス大学多宗教センター長
トー・スイフィンさん

本都市でも宗教が人間の日常生活(衣食住)と密接な関係を喪失している。そのために家庭教育、学校教育が崩壊し、社会・政治状況も行き詰まり、危機的な様相すら呈している。私達はここに至って宗教が諸問題に積極的に関与するためにどうすればいいのか改めて真剣に考える必要がある。尊い生命のかけがえのなさを、有り難さを感じ、互いの命を大切にしようとする心・精神がこれから人類の持続可能性を考えていく上で重要なキーワードになる」と語られました。

さらに、自由討論の後、西村RNN委



AMDIAシニア・アドバイザー、医師
プリミティブ・チュアさん

委員長も「近代がもたらした世界は圧倒的な力で人類を包囲しており、これに抗することは困難である。こうした近代的発想からの持続可能性と開発という問題意識に対して、精神世界である宗教の立場から、どのように接近していけるのかを考えていく必要がある。持続可能な宗教間対話を続けながら諸問題にアプローチしていきたい」との総括を述べました。

最後に、同フォーラムに出席していた



筑波大学名誉教授・国士館大学教授
荒木美智雄さん

それぞれの立場で様々な議論が展開されているが、祈り、感謝、感動する心をもたらし宗教は、人間が人間として生きる上の基本であるがゆえ、殊に宗教の立場からの発言は重大であり、今後の『持続可能な開発のための教育』に向けての取り組みに、宗教の尊い精神を加味してほしい」との願いが寄せられました。

熱心な討議が展開され、準備された4

時間もあつという間に過ぎ、永宗RNN

副委員長の先導で「平和の祈り」を出席

者全員で捧げ、午後5時に閉会しました。



「平和構築のための宗教対話」をテーマに開催されたRNNフォーラム

この後、午後6時から前RNN委員長である宮本光研師の自坊である、長泉寺にてRNNフォーラムメンバーによる懇親会が行われました。

子供のための宗教者ネットワークinジュネーブ / 万国宗教会議inバルセロナに参加

黒住RNN事務局長（黒住教副教主）は、黒住教を代表して、5月17～19日にスイスのジュネーブで開催された「子どものための宗教者ネットワーク（GNRC）第2回フォーラム」（妙智會教団「ありがとう基金」主催）に出席しました。ヨルダンのハッサン王子をはじめ、アルフォンス・ロベスローマ教皇庁家庭評議会議長、W・ベントレーWCRP国際委員会事務総長、クル・ゴードムユニセフ事務次長、また日本の諸宗教団体の代表者など、世界68カ国から350人を超える関係者が参加して、平和の祈り諸会議が開催されるなか、黒住事務局長は東アジア地域と南アジア地域合同会議の共同議長も務めました。

奇しくも一緒に共同議長を務めたのが、1997年の「おかやまNGOサミット」「RNN人道援助宗教NGO会議」の基調発題者で、スリランカのサルボタヤ・シユラマダーナ運動を代表するヴィンヤ・アーリヤラトナ氏で、2人は友情を暖めあうと共に、お互いの活動や今後の展望について意見交換しました。



開会式で英語で祝詞を奏上する黒住事務局長（バルセロナ）



神道の寛容性を講演する黒住事務局長（バルセロナ）



共同議長を務める黒住事務局長（ジュネーブ）

また、7月7～13日まで、スペイン・バルセロナで開催された「万国宗教会議」（テーマ「平和への道」）に参加し、開会式で出席者を代表して英語の祝詞を奏上するなど平和への祈りをささげ、講演では「誠の教えー神道による平和への道」と題して神道および黒住教の寛容の思想や平和的理念などを紹介しました。

先の大戦史上、最大の「日本捕虜暴動事件」と言われるオーストラリアの「カウラ事件」が起きて今年にはちょうど60年になります。黒住教は昭和59年（1984）から、戦没者慰霊祭を執り行っており、その縁で、このほど、地元のカウラ市からの要請によって、事件同日に行う最後の慰霊祭として諸宗教による合同祭典をつとめることになりました。

そこで、黒住事務局長（副教主）から、RNNの加盟メ

ンバーにもその参加要請があり、西村委員長と永宗副委員長が黒住事務局長（副教主）とともに出仕することになりました。7月30日に出版して、5日の慰霊祭に参列します。

また、今回の訪豪に合わせ、RNNフォーラムに参加して頂いたト・スー・ヒン先生をグリフィス大学多宗教センターに表敬訪問し、多宗教との対話の場を持ち、宗教理解を深めることになっています。

義援金、協賛金等送金用郵便振替口座
加入者名=RNN
01310・9・63933

「秋山豊寛のどんぶらこ」西村委員長がテレビ出演

西村委員長は2月28日山陽放送「秋山豊寛のどんぶらこ」（テーマ「憲法第9条と自衛隊イラク派遣」）に出演しました。谷口幸紀さん（香川県のカトリック神父）と共演され、冒頭、戦争そのものに反対する子供たちからの声を紹介し、派遣された自衛隊員が「殺すことなく、殺されることなく」という宗教者として最も基本的なキーワードをあげて締めくくり、心に残るメッセージを伝えられました。



2/28放送の山陽放送「秋山豊寛のどんぶらこ」より

※RNNメンバー紹介シリーズ「こんにちわ」はお休みました。

RNNが縁結び！ ヱィマラ師が玉島東中学校で講演



講演後、生徒に囲まれるヴィマラ師

総合学習でスリランカの現状を知り、支援交流活動を開始した倉敷市立玉島東中学校の子供たちが集めた支援物資を無駄なく安価に現地に届ける方法を探していた玉島通町郵便局の友國則子局長から、永宗副委員長（天台宗本寺院副住職／第二敬愛幼稚園園長）が相談を受け、シロガマ・ヴィマラ師を紹介。RNNフォーラムの出席にあわせて1月22日に同師が中学校を訪問し、全校生徒の前でスリランカの実状を話し、生徒代表より善意の支援用品や募金の寄託を受けました。RNNが取り持った縁、未永く交流が続きますように！

RNN 活動協賛者名

※下記の名称は、協賛者が寺院、教会、団体、個人等の場合でも所属教団、宗派名のみを掲載させて頂きました。

イスラーム	臨濟宗	立正佼成会	プロテスタント	天理教	天台宗	創価学会	真言宗	最上稲荷教	金光教	黒住教	カトリック
-------	-----	-------	---------	-----	-----	------	-----	-------	-----	-----	-------